



東邦大学

東邦大学医療センター佐倉病院 小児科

教授 かね むら ひで あき
金村 英秋



『てんかんをもつお子さんの QOL 向上を目指し、
専門的な医療を提供してまいります』

2020年1月1日発行

東邦大学医療センター佐倉病院小児科では、神経疾患を中心に、小児疾患全般に対応しております。とりわけ、てんかんについては複数の専門医が常勤していることに加え、様々な関連学会から専門医研修施設の認定を受けるなど、充実した診療環境を背景に、専門的な診療に取り組んでいます。

① てんかんとは

100人から200人に1人(日本全国で約100万人)はてんかんをもつと言われており、common disease(普通の病気)と捉えられています。ありふれた疾患であり、多くの患者さんが普通の生活を送ることが可能である一方で、様々な要因でてんかん患者さんはQOL(生活の質)が低下していることが指摘されています。その要因としては発作コントロールやスティグマ(ネガティブな意味での「レッテルをはられた」という心理状態)などが代表的なものとして挙げられています(表)。患者さんのQOL向上に向けた取り組みが、現在のてんかん診療では求められています。

- 発作コントロール
- 抗てんかん薬の副作用
- うつ
- 不安
- 発作の悩み
- 社会的不安
- 親の不安
- スティグマ

表 てんかん児においてQOLに影響する因子

② てんかん発作と認知・行動・心理面との関連

てんかんをもつお子さんでは様々な認知障害・行動異常を伴うことが知られていますが、この認知障害・行動異常がてんかんをもつお子さんにとって、発作と同等もしくはそれ以上にQOL低下を招く原因となりえることが推察されています。てんかんが及ぼす認知・行動面への影響に関する研究で、繰り返す発作やてんかん重積によって認知・行動面の発達に重要な役割を

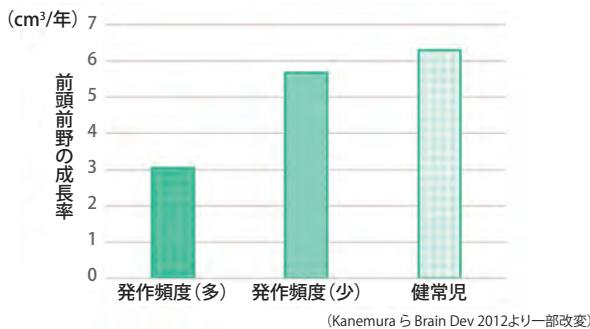


図1 発作頻度別で見た前頭前野の成長率

担っている前頭前野という脳領域の成長障害が惹起されることが確認され、このことが認知障害・行動異常に繋がっている可能性が想定されています(図1)。また、てんかん発作が繰り返されると、スティグマへと結びつき、疲れやすいなどの心理面の影響に加え、頭痛の頻度が高まることもわかってきました。てんかん発作は様々な形でお子さんのQOL低下を招いてしまうと考えられます。

③ 脳波所見と認知・行動・心理面との関連

認知・行動・心理面に対して、一部の脳波異常も影響を及ぼすことがわかってきました。てんかん性突発波は出現頻度が高いほど、発作反復に加えて認知・行動異常に繋がりがやすいことが確認されていますが、発達に重要な役割を担っている前頭部に焦点を有する場合も、多動性やスティグマの程度が高まるなど、行動・心理面へと影響を及ぼす可能性が推察されてきています(図2)。また、既に行動異常を認めている場合では、発作だけでなく脳波もあわせて改善をもたらさないと行動改善に繋がられない場合もあることが確認されています。

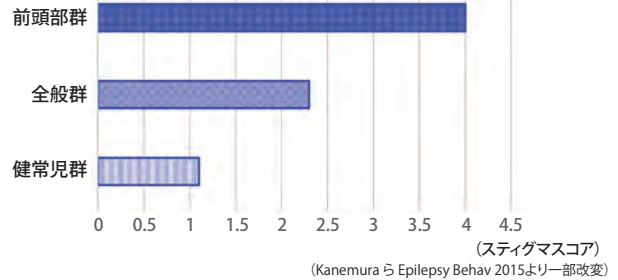


図2 脳波焦点部位別で見たスティグマの程度

④ QOL向上を目指したてんかん診療

てんかんをもつお子さんのQOL向上を果すためには、私たち医療者は発作だけに眼を奪われず、認知・行動障害に留意することが大切であること、一方で認知・行動障害の神経機序がてんかん発作の二次障害にあり、てんかん発作の心理状態への影響も鑑みて、QOL向上を目指した治療戦略として発作のコントロールがてんかん診療の要であることを認知・行動・心理面からも再認識する必要があります。さらに、前頭部突発波などの一部の脳波異常を有した行動異常をもつお子さんでは、脳波改善も見据えた治療戦略がQOL向上に必要であると考えています。以上の点を踏まえて、てんかんをもつお子さんのQOL向上に繋げるための専門的な診療に取り組んでまいります。

小児科	月	火	水	木	金	土
初診・再診	金村			金村		
紹介患者事前診療予約	予約可			予約可		

診療についてのお問い合わせ先

医療連携・患者支援センター

月～金曜日 9:00～17:00 土曜日(第3土曜日除く) 9:00～13:00

TEL 043-462-8770 FAX 043-461-2721

※当院受診の際には、できる限り紹介状をご用意ください。

発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局 〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1 / TEL:043-462-8811(代) / FAX:043-462-8820(代) / URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



東邦大学

東邦大学医療センター佐倉病院 産婦人科/リプロダクションセンター

准教授/部長 たかしま あきこ
高島 明子



『不妊治療から腫瘍まで、幅広く内視鏡治療で対応します』

2020年1月1日発行

近年の低侵襲手術化の流れに伴い、婦人科領域においても内視鏡手術は一般的な手法となっております。子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症などの良性疾患はその随伴症状により日常生活に支障を来す場合もある事、20～40代に多く見られる疾患であり、妊孕能温存、機能温存、症状の改善、再発予防といった観点から、適切な術式を選択及び確実な手術を施行する事が必須であり、内視鏡手術はその良い適応です。特に昨今の女性の社会進出や晩婚化に伴い、妊娠する可能性を残しておきたいという患者さんのニーズに応える事、或いは不妊症患者様の治療として、機能温存を目的とした手術は増加傾向にあります。当院は不妊専門外来（リプロダクションセンター）を併設している数少ない大学病院であり、不妊治療及び妊孕能温存に重点を置いている事が特色であります。手術までの待機期間と術後避妊期間の長期化は更なる加齢による妊孕能の低下を招きます。当院では外科手術が考慮される高齢不妊患者さんでは、まず体外受精・受精卵保存を手術に先行して行い、術後に凍結胚を融解移植し妊娠を期待する併用療法（図1）を行っております。併用療法の適応かどうか（図2）、患者さん一人一人に合わせたオーダーメイドの治療を行っておりますので治療の御相談は内視鏡専門外来に御紹介頂ければ幸いです。

内視鏡手術は身体への負担や術後癒着が少ないことがメリットであります。一方で内視鏡特有の合併症、偶発症も常に細心の注意を払う事が必要です。日本産科婦人科内視鏡学会では内視鏡手術を安全かつ円滑に施行するものを認定し、内視鏡手術の発展と普及を目的として2003年に技術認定制度が導入されました。内視鏡の多様化する周辺機器の特性を理解し適切に使用し、安全に手術を施行する事は必須であ

併用療法：手術と生殖補助医療(ART)

採卵-凍結 → 手術 → (採卵-凍結) → 融解胚移植



図1

併用療法の適応

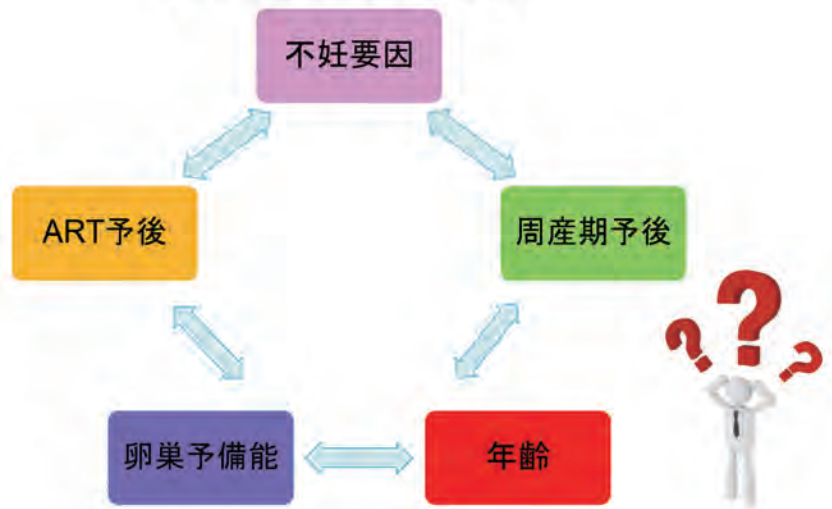


図2

ります。内視鏡治療には適応と限界の見極め、手術までの適切な前治療が必要となります。当院は県内唯一の腹腔鏡及び子宮鏡両方の技術認定医が常勤する内視鏡認定施設でありますので、可能な限り患者さんのニーズに合った安全で適切な治療法を提供できると自負しております。

悪性腫瘍に関しましては、保険収載された子宮体癌に対する腹腔鏡下手術を2020年から開始致します。今後も婦人科内視鏡手術のニーズと適応は拡大していくものと思われま。当院が千葉県における婦人科内視鏡手術の拠点病院となるよう、尽力したいと思います。

産婦人科/リプロダクションセンター	月	火	水	木	金	土
産婦人科 内視鏡外来 (紹介患者事前診療予約)	高島 ※午後 (予約可)			高島 ※午後 (予約可)		
リプロダクションセンター	高島 ※午前		高島 ※午前			

※当院受診の際には、できる限り紹介状をご用意ください。

診療についてのお問い合わせ先

医療連携・患者支援センター

月～金曜日 9:00～17:00 土曜日(第3土曜日除く) 9:00～13:00

TEL 043-462-8770 FAX 043-461-2721